

### Ⅲ. 教育課程の研究

#### 1. 活動の基本方針

研究課題の達成を目指した授業実践をもとに、教育課程の妥当性を検証していくとともに、実践の成果を教育課程編成にできるだけ生かす。

#### 2. 今年度の主な活動

- (1) 管内実践の集約と資料化 ～二次集会の協議内容を集約し、「石狩の教育」と「石社研情報」を執筆する。
- (2) 石狩管内副読本検討委員会～今年度は6月22日(木)に検討委員会を開き、活動状況や現行の副読本の問題点などを交流し、今後の活動の参考にしよう場とした。

(文責 水元康公)

### Ⅳ. 研究の成果とまとめ

「社会を見る確かな目を育てる子どもの育成」を主題とした研究が2期目をむかえた。過去2年間の成果と課題をもとに、より深化させる研究がスタートした。

今年度の二次集会では、石社振が『事実から思考する姿勢を持たせる学習展開の工夫』を重点に実践検証を行った。石社振の「学習展開の工夫」とは、「問い直しの場面」を設定することによって、子どもたちの一面的なものの見方を揺さぶり、多面的なものの見方を促すことである。

石社振各学年の成果を簡単にまとめると、

- ◇3年生…『くらしの中のごみ』の単元で、ポスターセッション形式の発表交流を行った。「ゴミ減量マニフェスト」を作り、お互いの発表を聞きあう中で、自分自身の考えを深めることができた。
- ◇4年生…『漁業の町から 港の町へ』の単元で、ランキングをつける活動を行った。その後、友達同士で理由を交流し、活動の「振り返り」としてもう一度ランキングを考え直すことで、より理由がはっきりし、考えが深まった。
- ◇5年生…『くらしを支える情報』の単元で、同じ日の二紙の新聞記事を比較し、その違いを付箋紙に書き込み洗い出していく活動を行った。この活動では、子どもたち一人ひとりに自分なりの考えを確実に持たせることができた。
- ◇6年生…『戦争から平和への歩みを見直そう』の単元で、多くの人に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える1枚の写真を選び、理由を書く活動を行った。前時までの学習で蓄積した情報を生かして自分の考えをまとめていく力が身についた。

「問い直しの場面」は、子どもたちの主体的な学びを生かす「ワークショップ型の授業」で行われた。4つの学年とも、子どもたちのいきいきとした表情、全員が自分の考えを持とうとする姿が見られた点では、大いに成果があったと考えられる。しかし、一方で、ワークショップという授業の『型』に目をとられやすい。忘れてはならないことは、授業の方法や型ではなく、あくまでも社会科としてのねらいを達成し、子どもたちに社会を見る確かな目を身につけさせるための授業づくりをすることである。ワークショップ型であれば、なおさら、それまでの授業での積み上げが重要になってくる。

今年度は、石社振の提案性のある研究実践が行われ、市町村の独自性が強調された年であった。また、各市町村の実践の中にも資料活用や多面的に考えるということを意識した実践が多くみられた。ただ、毎年のものであるが、1時間の内容には資料が多すぎるという反省があげられている。やはり、ねらいと実態をふまえて、資料を精選していく必要がある。資料は社会科の命である。その活用の仕方に力を注いでいきたい。そして、ねらいを大切に教材の開発、資料活用、吟味された発問とが一体となった授業づくりをめざしたい。

来年度は、『社会を見る確かな目を育てる子どもの育成』の主題が4年目になり、まとめの年である。各市町村の推進委員と更に連携を深め、これまでの実践の成果を礎に、いっそう主題に迫る研究・実践を推進していく。

最後になりましたが、各市町村事務局を中心とした部会員の取り組みと研鑽に敬意を表します。特に、石社研二次集会で授業をされた先生方、提言をされた先生方、そして石社振の先生方、素晴らしい検証授業と貴重な提言に心から感謝いたします。

(文責 林 克哉)